

夢よ広がれ！ようこそ先輩！



～世界で活躍する先輩からの出前授業～

今日、様々な分野でグローバル化が加速度的に進展し、人・物材・情報等あらゆるものが国を越えて、一層流動する時代を迎えています。それに伴い、異なる文化・文明との共存や国際協力の必要性が増大し、これまでも増して英語力が求められています。

鳴門市でも、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力、確かな英語力の育成を目指して、ALT 派遣や外国語教育に関する研究組織の設置、イングリッシュ・デイ・キャンプの実施などの様々な事業を通して、国際理解教育や外国語教育を推進しています。

この出前授業では、児童生徒が一層グローバルな視点を持ち、英語学習へのモチベーションを高めていくことを期待し、世界で活躍する鳴門出身の講師を学校に派遣しています。今回の講演では、講師ご自身が、実際に夢を追い実現している姿や、英語が使えることにより活躍の場が広がり、世界の人々となつながら可能性があるということ、経験等を踏まえてお話いただきました。



講師

Ronald 大輔 Jourden 氏 (ハワイ島在住)
ドルフィンスイムガイド・写真家



令和元年6月6日(木)に鳴門中学校、鳴門西小学校、鳴門東小学校の児童生徒対象に鳴門中学校出身のジョーデン先生をお招きし、「夢をつかもう 世界に羽ばたこう～In Between Dreams～」という題で、ジョーデン先生が撮影した、野生のイルカと一緒に泳ぐ素敵な映像もを見せていただきながら、お話していただきました。

(講師の話 抜粋)

「中学生の時はハーフであることにコンプレックスを持ち、英語の成績はよくなかった。でも、英語の授業で英語の歌を歌ったのがきっかけで、興味をもち英語を一からやり直した。」

「想像できる夢は叶うから、夢を追いかけてほしい。」

「夢は、1人では叶えられない。周囲の意見も聞きながら、でも、自分の軸は曲げないことが大事。」

「日本人は、恥ずかしがって英語を話そうとしないけれど、ハワイでは(海外の人達は)、間違えていてもどんどん話す。伝えたいことを我慢せずに話そうとすることが大事。英語が話せると世界の半分の人(35億人)と会話でき、チャンスが広がる。」

「チャンスは、どこに転がっているかわからない。自分も芸能人の木梨憲武さんにスイムガイドをしたあと、撮った写真をプレゼントしたら、「この写真いいね」と言われたことがきっかけで、写真家になった。」

「いろいろな大変なことも自分のために起きていることだから、必ず乗り越えることができる。苦労がたくさんあるということは、喜びがたくさんあるということ。」

「中学校3年間で1番大事。毎日、同じ日はないから、毎日を楽しもう。」

最後に英語で、“My dream is, I want to travel around the world, see the whole world and have many experiences for by myself.”と、夢を実現した今も、新たな自分の夢を語り、数々の前向きな言葉に鳴門中学校の生徒も心を動かされているようでした。

小学校では、「イルカと鯨のちがいは?」「イルカとふれあうとき、気をつけることは?」といった質問に答えていく形で講演が進みました。イルカに会うために、2分間息を止めて、8メートル(体育館の天井から床ぐらい)潜るという話を聞いて、子どもたちからは大きな驚きの声が聞こえました。ジョーデン先生からは、「何もせずあきらめるのではなく、チャレンジしてみよう。」と教えていただきました。

鳴門中学校出身である身近な先輩の話は、子どもたちの学びにつながったことと思います。